

「身近な夏の不思議体験 2012 イン 山科」開催

山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会と本学が主催する理科教室「身近な夏の不思議体験 2012 イン 山科」が9月2日、京都薬科大学にて開催された。本イベントは昨年に引き続き2回目の開催であり、山科地区の小学生を対象に理科に対する興味を持つきっかけになればと本学学生実習支援センターが中心となって行われた。当日は約450名の応募の中から抽選で選ばれた120名の小学生が参加し、午前の部(60人)と午後の部(60人)に分かれて実験を体験した。実験では、参加した小学生全員に白衣を配布し研究者としての雰囲気味わってもらおうと共に安全に対する理解を深めながら以下の2つの実験を行った。

尿素が水に溶ける際の吸熱反応を利用したヒンヤリカイロを作る実験では、尿素が溶解した瞬間「わー冷たい」という声が会場中から聞かれ、残暑の残る中、自然の不思議と共にひとときの涼を体験してもらうことが出来た。続くルシフェリンとルシフェラーゼを用いたホタルの発光現象を観察する実験では暗闇の中、黄色の発光が起こった瞬間、部屋中のあちらこちらで実際に蛍が飛んでいるような幻想的な雰囲気を参加者全員で楽しむことが出来た。さらに青く発光することで知られている海ホタルの発光も観察してもらい、生物の違いによる発光の色の違いを体験してもらうことが出来た。参加した生徒の中には目の前で起こっている現象に興味を持ち、水をもっと足したらどうなるのか、この液体とこの液体を混合したらどのような色になるのかといった事を積極的に質問し、自らのアイデアを試す生徒も多数みられ大人では思いつかない自由な発想に驚かされる一面も見られた。昨年に引き続き2回目の開催とはいえ普段小学生相手の指導を行っていないため不安の中スタートした理科教室であったが、生徒と教員の垣根を越えたりラックスした雰囲気です自然の不思議を体験することが出来た。今回の理科教室を通じて、自然の不思議が身の回りに数多く存在し、これらの不思議を解明していく理科の面白さに少しでも気付いてもらえれば、本学教員として幸いである。最後に、本会の開催にあたり多大なご支援を頂きました山科“きずな”支援事業補助金交付対象事業に深謝致します。

学生実習支援センター 助教 小関 稔

